# W校中高等部だより

# のみの市特集

令和三年（２０２１年）十一月十三日

ニューヨーク補習授業校ウェストチェスター校




十一月十三日に中高等部主催の「のみの市」が開催されました。コロナ禍で開催が危ぶまれましたが、外部からの参加はなかったものの、結果的に、幼初等部の参加を含む全校あげての行事となり、中高等部全員が力を合わせて成功へと導くことができました。

今年は、各クラスが、各教室にブースをつくりました。各学年とも幼児部初等部向けのゲームコーナー、各家庭から出品していただいたバザーコーナー、保護者の方々からなるベーク製品コーナーを設けました。各学年をあらかじめ割り当てられた幼初等部のクラスが訪問をし、楽しい時間を共有しました。

準備の話し合いは、夏休み前からもたれ、正式に九月から始まったのみの市委員会では、最初に収益金の寄付先を決定。今回の寄付金は、日本財団へ送ることになりました。

のみの市当日、保護者の方々による準備から始まり、十二時少し前にはすべての準備が整いました。各クラスに幼初等部の児童が訪問を始めると、一気に雰囲気は盛り上がり、それを笑顔で迎え入れる生徒たちは、普段経験しないような緊張感や責任感を体験。特に、昨年はのみの市が開催されなかったので、初めて参加する中一、中二の生徒、また幼児部・初等部の児童にとっては、とても新鮮な驚き・喜びをたくさん経験しました。

午後二時以降は、中庭に一部の生徒と保護者が移動。幼初等部のお迎えに来た保護者を対象にベーク品、バザー品の販売が行われました。雨が降っていたので、テント内での販売となりましたが、多くのクラスがここで奮闘し、ベーク品などを売り切りました。

こうしてのみの市は無事終了。保護者の助けを借りながら後片付け、そして各クラス会計担当による集計も終了しました。収益金の合計は最終的に三千百四十五・六八ドルでした。コロナ制限下での開催にも関わらず予想以上の収益に生徒たちは大喜び。この達成感を忘れることはないでしょう。

のみの市当日、またのみの市開催に至るまでの過程で色々とご支援いただきました保護者の皆様方には心から感謝申し上げます。



## 蚤の市

中等部一年一組　吉田　倖太朗



僕の「蚤の市」の感想は、半分楽しかったのと半分疲れたのがあります。

楽しかった理由は、こういう経験があまりなくて、バイトをしている気分でした。最初はあまり何をしたらいいのかわからなくてキョロキョロしていたのですが、時間が過ぎていくたびに面白くなってきました。

特に面白かったのはゲーム係です。理由は、ゲーム係が一番初等部と話せたからです。釣竿を渡すところが、僕の好きなことでした。初等部と一番話せたからです。もう一つ楽しかったことは、僕のグループと他のクラスを見回ることでした。他のクラスはボーリングなど色々やっていました。

そして、疲れたと思ったところは思っていた以上に初等部のクラスが来ていたからです。やっと終わるかと思っていたら、また違うクラスが来て、その時すごく疲れました。それでそのクラスが帰ってもう終わりか、と思っていたらまた違うクラスが来て失神しかけました。あと一つは、僕のグループが外を回っている時に、また違うクラスが来て、ダッシュでクラスに戻ったのです。

色々とありましたが、すごくよい経験だったと思います。

## のみの市

中等部一年一組　粟飯原―ワイス　寿里

今年は中一も中二も、両方の学年が初めてのみの市に参加しました。とても楽しかったし、また復活できてよかったです。

ポスターや魚などの準備は全部できていませんでしたが、当日に時間があって、終わってよかったです。魚・海の生き物と釣竿はたくさんできて、先生が色々な魚の絵と「水」の材料を持ってきてくれて面白そうな「釣り場」ができました。

思ったより多くのクラスがお客さんとして入ってきました。幼児部はとても小さくてかわいかったです。しかし、最後の方に来たので、私達が残った商品を値下げして押しつけたようでなんだかかわいそうでした。それでも後で私が持ってきていた品物を母が見つけてそれを出せたので、種類が増えてよかったです。

四年生は、私の妹のクラスでした。まず女の子が入りました。みんな恥ずかしがってドアのほうで集まっていました。それから普通に釣りをしたり、雑貨を見たりしていました。次に男子が来て、女子よりはしゃいでいました。

一番盛り上がったのは、初めに来た二、三年生だと思います。何度も釣りをした子が何人かいました。その時私は賞品の係をしていて結構忙しかったです。



私はグループBだったので、ランチが二番目でした。カフェテリアにはほとんど人がいなくて、静かで変な感じでした。食べ終わった後は他のクラスを見に行きました。それぞれベーク品はとても美味しそうで、「先生倒し」や「宝くじ」などゲームのアイデアがすごいと思いました。

のみの市が終わった後、全員疲れていました。特に先生はお昼も食べられなくてかわいそうでした。

のみの市は、とても楽しかったし、お金も集まったのでよかったです。

## 蚤の市

中等部一年二組　　入江　奏千子

今回は補習校で二回目の行事でした。しかも、私は今回蚤の市委員になっていたので皆を引っ張っていけるのかとても緊張していました。

元々私達のクラスは、ゲームやポスターも完成しておらず、当日の準備だけで間に合うのかとても心配でしたが、なんとか間に合ってよかったのです。蚤の市が始まり、私は最初はゲームの担当をしていたのですが、紐を引いても、何も取れないというハプニングが起きてしまいました。でも、手伝いに来てくれていた、保護者の方々のおかげもあり、大丈夫でした。休憩の時に、ピテル君がミニバスケットゴールのような物を買っていて、とても面白かったです。

第二ロテーションの時に私達は最初に外での販売だったのですがその時既に雨が降っており、雨の勢いが強くなっていました。その時に、ちょうど交代の時間になり、少し濡れながら教室に戻りました。交代した後ベイク品用のポスターが教室にあったので、それを届けに外に行った時に雨の勢いがさらに強くなっていました。ポスターが少し濡れてしまいましたがそれを外の販売班に渡して教室に戻りました。その少し後に、外の雨の勢いが強くなりすぎてその販売を中止することになってしまいました。濡れながら行ったのに、と少し悔しかったです。その後は残ってしまったベイク品などを小さなカゴに入れて校内を歩いて回り売りました。その後、雑貨品なども全て完売できてとても嬉しかったです。

今回の蚤の市を通して、様々なことが知られてとても良かったです。また次に行われる行事も頑張りたいと思います。



## 蚤の市の経験

中等部一年二組　永井　蓮



今日、補習校で蚤の市をやりました。今年は、売る役割でした。僕のクラスはゲームをやって、宝引きをやりました。宝引きは、箱の上に穴を開けて、糸を通して、糸の先に景品をつけました。しかし、糸は他の糸と交わって、どの糸がいい景品にたどり着くかを見つけようとする遊びです。ゲームをやってはいませんけど、他の子達に教えるのも楽しかったです。

次に、普通の商品を売る役になって、色々な品物を売りました。しかし、商品が少し高かったので、少し値下げしました。次にランチと、自分が買う時間になりました。ベーク品をいっぱい買って、昼に食べました。ドーナッツふたつと、プリンと、お菓子が入ってる箱ふたつと、チョコパンを買いました。家で食べて、美味しかったです。

最後に、ベーク品を売りに外へ出ました。雨がすごく降っていて、ぬれました。ベーク品も一個も売れませんでした。終わりまであと十分のとき、みんなで学校中を走り回って売りました。結局最後は一個しか残ってなかったので僕が買いました。片付けているときに、他のクラスの人達がいっぱい来て、一ドルで売ってきたので、いっぱい買いました。お得で買えて嬉しかったです。終わったときは疲れていたけど、すごく楽しくて、もう一回やりたいと思いました。

## 物を売る楽しさを知った

中等部二年一組　新木　太一修

十一月十三日、四から六時間目にのみの市があった。のみの市では、中一から高二までの生徒たちが雑貨、ゲームコーナー、ベーク販売の出店を行った。そこでは僕は人を喜ばせる大切さと楽しさを学んだ。

初めのお客さんは幼児部さんだった。雑貨コーナーで僕は接客を始めた。まず僕は「普段は何して遊ぶのが好きか」と聞いた。一人の女の子は「絵を描くのが好きだ」といった。それを聞いた僕は、目の前にあった絵具、クレヨン、色鉛筆、チョーク、お絵描きに必要な物がすべて揃っているお絵描きセットを提案した。女の子は迷わず、嬉しそうに「ありがとう」といい買ってくれた。物を売って他人を喜ばせるのがこんなにも嬉しいことなんだ、と実感した。

初めは、のみの市なんて物を売るだけの面白くない行事なのかな、という思いで参加したが、商売の楽しさを学ぶことができ、最高に楽しく充実した日だったなぁ、という思いへと変わった。来年も、のみの市をやるのが楽しみです！



# のみの市

中等部二年一組　安藤　航生

十一月十三日、午後に「のみの市」があった。今回は、僕にとって初めてののみの市参加となった。最初は仕事が多く、大変だろうと思っていた。

しかし、いざイベントの準備にかかると、クラスのみんなとの交流が増え、とてもいい雰囲気になった。時間に追われる中、必死にグループと一緒に行動をとり、忙しかったものの、焦りと興奮が交り、楽しめた。



それまでは順調だったが、外での販売となった時、大雨に見舞われた。売れゆきがなかなか伸びず、最終的には中高等部の教室を回って売りに行くという微妙な結果となってしまった。

初めは「午後に授業がなくなるからラッキー」ぐらいに思っていたが、実際には友達との交流を増やし、人生の経験にもなり、いい思い出を作ることができた。

# 初めてののみの市

中等部二年二組　静　大海

中学生になって初めての「のみの市」。去年はコロナウイルス感染拡大防止のため、「のみの市」は開催されなかった。なので、僕たちのクラスはとても楽しみにしていた。当日はたくさんの人が来て大成功に終わったが、いくつかの反省点があった。

一つ目の反省点は、準備に時間を使いすぎたことだ。僕たちのクラスは、常に他のクラスより一歩おくれていた。どのゲームを出すのかを決めたのは期限ぎりぎりだったし、最後のポスターができたのは当日の朝だった。この経験から、今まで僕が楽しんできたイベントなどの全てが、たくさんの人の努力によって支えられていたということが実感できた。また、今まではイベントの延期などに不満を感じていたけれど、これからはイベント運営側の気持ちも考えられるようになるだろう。クラスで一致団結して一つのことをするのは初めてだったので、とても良い経験になった。

二つ目の反省点は、当日のシミュレーションが足りなかったことだ。大まかな進め方は説明されていたが、細かいところについては何も知らなかった。そのため、僕はとても混乱した。ポスターを完成させる必要もあったので、とても忙しかった。さらに、ゲーム、ベーク品、雑貨を並べるのに手間取り大あわてだった。本番前にそれらのことについての説明があったらもっとスムーズにできたと思う。この経験から、準備がいかに大切かを学べた。

僕たちの初めての「のみの市」には、たくさんの反省点があった。しかし、来年も「のみの市」はあるので、この反省を生かしてよりよい「のみの市」にしたいと思う。

## 笑みの刃

中等部二年二組　　マーティン　美桜子




今年、私は初めて「のみの市」を経験しました。なぜなら去年はコロナのためなかったからです。「のみの市」は中高等部の年間行事の中で最大のイベントと聞いていましたが、正直に言うと私はそれほど期待していませんでした。でも、「のみの市」が終わって、私は「のみの市」が楽しいと心から思えるようになりました。

私たちは何か月も前から「のみの市」の準備をし、毎週少しずつポスターやゲームを作っていきました。そして、「のみの市」が近づくにつれ、少しずつ実感がわいてきました。私たち二年二組は、「鬼滅の刃」から影響を受けて「笑みの刃」がテーマでした。当日、私は「鬼滅の刃」に出てくる「胡蝶しのぶ」のコスチュームを着ました。始めは少し恥ずかしかったけれど、コスチュームを着たことで「のみの市」が盛り上がったし、何度もほめられたので、「のみの市」が終わるころには恥ずかしさもすっかりどこかに行ってしまいました。

「のみの市」で私が一番楽しかったことは、ゲーム担当だった時です。私たちががんばって作った「モグラたたき」や他のゲームを、幼初等部の子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿を見て、私もとてもうれしくなりました。

「のみの市」は楽しかっただけではなく、クラスの結束が強まったイベントだったとつくづく思います。私は来年の「のみの市」を今から楽しみにしています。

## のみの市

中等部三年一組　　井出　諒



今年ののみの市は、個人的に割と意外な結果になったと思います。のみの市の前、僕のクラスはゲームや売買などのための準備をしていました。ところが、ゲームのルールやグループの分割などがなかなか決まらなく、クラス相談は生産性がないもめ事のようになってしまいました。実際、のみの市に関する決断はのみの市の数日前に決めたようなものでした。僕はのみの市当日がどうなるのか心配でなりませんでした。また、眠るのが難しかったクラスメートもいたそうです。



しかし、当日では何事もなかったように、とてもスムーズでした。自分では言いたくはないのですが、我々が『適当』に準備したのに限らず、当日は何のトラブルもなくのみの市が終わりました。その後、それがなぜだろうとしか僕は考えられませんでした。

僕の考えでは、のみの市が実にスムーズにいった理由は、皆が参加し、皆が協力し、皆が楽しんだからだと思います。それだからこそ、クラスのみんなの努力が一つの合力となり、適当な準備に限らずのみの市を問題なく実行できたと思います。これからは、準備を丁寧にやり、さらに『みんなの合力』を活かしたいと思います。そうすれば、どんな困難でも乗り越えられると思います。

のみの市

中等部三年一組　　押川　正太郎

のみの市は補習校を象徴するものだと思っている。本来、補習校とは一習慣に一度しか行かないところだ。そんな補習校のクラスでイベントをやろうというのは、簡単なことではない。それでも『のみの市』という行事を毎年続けられるのは、補習校の生徒の団結力の表れではないかと思っている。

そんなのみの市だが、今年も行われる、と聞いた時は私は驚いた。去年に比べるとかなり状況は改善したとはいえ、コロナウイルスの影響はまだ消えていない。新しい今年ののみの市は、過去とはかなり違う方法で行われることになった。私は正直に不安であった。例年ほどにぎやかになるのか。例年ほどお金が集まるのか。何より私を不安にしたのは準備期間の短さだった。最後の一、二週間に色々とつめ込むのは文化祭の定番かもしれないが、週に一度しかクラス全員と会えない補習校では、一、二週間とは一、二日の事なのだ。本当に間に合うのだろうか。そんな疑問を私は持ち続けていた。

結果として、間に合った。もちろん完璧ではなかったが、状況の中で最大限の努力で、のみの市は成功して終わった、と思っている。改善する点はいくらでもあったし、売り上げも例年ほど大きかったわけではない。それでもコロナウイルスによる制限なども多くあったなかで、ここまでできたのは大きいと思っている。今回ののみの市は、クラスだけでなく、補習校全体の団結力を見せる事のできたのみの市ではないかと思っている。



## 二年ぶりの蚤の市

高等部一年一組　　寺門　澪



「皆さんは出し物とゲームは何にしたらいいと思いますか？チャットに書いてください。」

朝の九時、Zoomからの蚤の市委員の声を聞きながら、私はパソコンの前に座りぼんやりとしていました。私が何がいいだろうと考えている間、他のクラスメートから意見が次々に出てきました。出し物はブレスレット、そしてゲームは射的になりました。ブレスレットは星や色の種類でグループに分けて作りました。「来週までに一人十個作ろう！」と目標を立て、その結果毎週出来上がったブレスレットがどんどん増えていきました。射的もクラスのイラストレーターが的に日本の妖怪を描き、みんなで色々な輪ゴム銃を作りました。

蚤の市の当日、私はとても緊張していました。ちゃんとブレスレットは買ってもらえるのだろうか？ゲームは楽しんでもらえるだろうか？こんな疑問が行き来している間に三時間目が終わり、準備が始まりました。

「それはこっちだよ！」などの言葉が飛び交う中、準備はあっという間に終わりました。

蚤の市が始まり、初等部の皆さんが射的で遊び、ブレスレットを買っていくのを見て私はとても嬉しくなりました。ところが急に嵐がやってきました。数分も立たない内にザーッと雨が降り始め、私は雑貨を運んでいた外のテントに閉じ込められました。数十分後には止み、正常に戻りました。

突然の雷雨というサプライズもありましたが、すべて順調に進みました。コロナ禍の中、クラスのみんなで協力しあいながら楽しい蚤の市になりました。ボランティアの皆さん、蚤の市をプランしてくださった生徒会や先生方、ありがとうございました。また来年はコロナによる規制もなくなり、今年より楽しめたら嬉しいです。



## 蚤の市について

高等部一年一組　　渡邉　慧

去年はできなかった蚤の市、今年はやっとまたできると知り、僕の気持ちが高まっていた。しかし、コロナウイルスもそんな簡単には去ってくれない。

今年は初めて、食べ物禁止の蚤の市となった。毎年恒例のクレープも、二年連続のベンチとなった。食べ物以外で寄付金を集めろという、補習校では前代未聞の忠告があった。

「そんなん無理に決まってんやん。」



これが僕の本音だった。食べ物がメインと言っても過言ではない蚤の市を、食べ物なしでするのは無理難題だと思った。ゲームだけだとつまらないし、生徒以外が校内に入れないのは納得いかなかった。正直言って、今年の蚤の市はあまり期待していなかった。そして予想通り、寄付金は例年に比べて少なかった。

しかし僕は一つ、大きな過ちを犯していた。それは蚤の市を金銭的な目でしか見ていなかったことだ。確かに今年の蚤の市は金銭的な観点から見ると、失敗作だった。でも、個人的な視点から言わせると、予想以上に楽しかった。クラスメイトとのチームワーク、程よい忙しさ、子供たちの笑顔。二年以上味わっていなかったためだろうか、今年の蚤の市はいつも以上に盛り上がった。このご時世だからこそ、色々できなかったこともあったが、体験は楽しかった。来年はまたリベンジしたい。

## のみの市

高等部一年二組　　中山　モイラ

今年ののみの市ができてとてもうれしかったです。私はのみの市のことをとても楽しみにしていたので、去年コロナの影響でできなくてとても悲しかったです。

一年二組はクラスでボウリング「先生たおし」をしました。私たちのクラスは、最後までまとまらず、必死でボウリングを組み立てたりしました。最後にはみんなまとまることができて、子供たちがボウリングを楽しんでいる姿を見ることができてうれしかったです。

忘れられないのは、雨と雷の中、雑貨やベーク品を売っていたことです。雨が一番ひどい時に、シフトがえがあり、必死で学校の中に走っていって、びしょぬれになったのも忘れられません。

今年ののみの市はいろいろありましたが、とても楽しくて、開催できてよかったです。



# のみの市の作文

高等部一年二組　　大西　琳太朗




「ボウリングしませんかー！」

僕は、廊下にいる人などに声をかけていました。僕のクラスは、出し物のゲームをボウリングとして決めました。そして、今日、のみの市の当日、全力で人を集めようとしていました。

久しぶりののみの市。コロナのせいで、一年おきになってしまいましたが、それでも、楽しいことだけは覚えていました。なので、できるだけ生徒会として、クラスを率いてこの二年ぶりののみの市を成功させようと思っていました。しかし、人生とはそんなに甘いものではありません。何せ、のみの市の計画をする時期に、僕はSATやACTを入れていて、補習校にあまり来られませんでした。なので、それが全て終わった後に、急いで失った時間を稼がないといけませんでした。

しかし、僕の思い過ごしで、みんなはもう順調に進んでいました。最後の方になると、のみの市のために、色々間に合うかヒヤヒヤしましたが、ちゃんと間に合いました。今年は、クラスで食べ物を出すというのみの市の楽しい活動ができませんでしたが、コロナ禍で、みんなで力を合わせてできた、誇らしいのみの市でした。

# 補習校最後の「のみの市」

高等部二年一組　　コウエン　ダリアス

補習校最後ののみの市が、いつもとは違う形で行われた。しかし、開催された。去年は開催もできなかった。違う形で開催されただけでも、良かった。

今年は最高学年ということで、話し合いからいろいろ参加した。のみの市の目的は「寄付金集め」。どこに寄付をするかを決めるところから話しあったがなかなか難しかった。日本の誰に？どこに？みんなで色々と考えたのは興味深かった。高二はもちろん中高等部のみんなが色々と考えていることを聞けて良かった。

寄付金を集めるために、幼初等部や保護者に色々な物を買ってもらったり楽しいゲームをして遊んでもらってお金を集めることをした。ゲームをしてもらえなかったらお金を集められないので、なんとか楽しそうなゲームだと宣伝して幼初等部に楽しんでもらうようにするのは、簡単ではなかった。しかし、ぼくは楽しんで頑張った。幼初等部がゲームをしてくれて楽しんでくれたのはうれしかった。みんな元気が良くてかわいいなあ、と思った。

先生も色々協力してくれたけれど、クラスメートや下級生と協力してのみの市を作っていけてとても良かった。



これからもこういう寄付に取り組むことがあると思うが、この経験がとても役に立つと思う。僕はあまり他人のために、ということを考えて何かをすることはないけれど、人はみんな他人のために何かをしたり他人が喜んでくれることをすると自分も楽しく自分のためになると思った。

下級生のみなさん、来年ののみの市も誰かのために楽しんで頑張って下さい。

## 最高学年の対面試練

高等部二年一組　井澤　幸平

十一月十三日補習校ではのみの市が行われました。これは約一年振りののみの市であり、コロナ禍で開催されました。今回ののみの市はコロナ禍での開催と言うことで、感染対策を考慮して様々な工夫をした上での開催でした。中高等部のクラスを例年ののみの市で使用されていた第二カフェテリアではなく、各教室に出し物を用意し密集を避け、教室を広々と使い幼初等部に向けたゲームと雑貨を展開しコロナの感染対策として客が一箇所に集まらないようにし、外でも販売を行い、校舎に入ることのできない保護者のためにも販売を行うなどの工夫をしました。

今年はコロナウイルスという大きな障害がありつつも無事開催でき、幼初等部の生徒たちの楽しそうな顔を見られ、最終的には例年と変わらず多くの寄付金が集まり安心感と達成感で心が満たされました。今年は去年開催出来なかった分より頑張らなくてはと感じ生徒会長としてそして数少ない高校二年生としてより力を入れました。

今年ののみの市での最大の困難はのみの市本番の約二ヶ月前から定期的に行われていたのみの市委員会でした。普段慣れない決まった内容を説明するという作業を各クラス代表ののみの市委員の前で行い的確にその会議で伝えるべき内容を伝える。一見単純な作業に聞こえますがマスクの着用を義務付けられている現在、表情が読めない大勢の生徒に情報を提示するのは想像を絶する試練でした。これは同じ経験をしている入江副会長との共感認識なのですが、マスクを着用した中高生の集団の前で情報を共有するほど緊張することはないです。表情が読めない上情報を理解しているのかすら読み取れない僕らは彼らに仮にも間違った情報を伝え彼らの代表するクラスに誤った情報が伝わったらどうしようと常に危惧していました。最終的には無事全ての会議を終え誤った情報を伝えることはなく安堵しました。





二〇二一年十一月コロナ禍で行われたのみの市とその準備期間を通じて僕は久々ののみの市に満足と喜びを感じると共に、生徒会長として、そして最高学年かつ最小人数を持つ学年の一員としての苦労を実感しました。

## のみの市を通して短所と思われることを長所に変える

高等部二年一組　　入江　仁悠

先日待ちに待ったのみの市が開催された。二か月ほど前に行われたスポレク大会と同様、コロナ感染の対策をしつつの開催となり無事に行事を終えられるのかという心配があった。また、僕個人的には補習校に来てから初めての大きなイベントであったため慣れないことや不安なことがあり、土曜日は緊張して登校した。しかし、結果的には不安をもろともしないくらいの大成功で一日を締めくくることができたと思う。そのような大成功に導いた要因は高二の人数だと僕は考える。

僕たち高二は全員で三人しかいない。最上級生でありながらこの人数の少なさは様々な場面において不利になる。例えば、何かに関する意見を出す場合、人数の少なさは大きな短所である。しかし僕を含め高二のクラスは特に行事などにおいて最上級生としてのリーダーシップを発揮する必要があるときは、人数の少なさを短所ではなく長所に変えるように努力した。その努力が実ったのが今回の蚤の市だった。僕たちのクラスでは一人一人が最上級生という強い責任感を持ち行動することができた。そして一人の意見は大きく反映されるため慎重に最善の案を出すことが今回の蚤の市において非常に役立ったと思う。また、三人だけは行事の全てをミスなくこなすのは難しいため、高一の生徒や高二のお母さん方に手伝ってもらった。そのおかげで高二は三百九十九ドルという全学年の中で最高額の収入を得ることができ、補習校全体の寄付金に大きく貢献することができた。

高二になった当初は行事の有無すらわからず、行事があっても上手くやりこなせるのかが心配だった。しかし実際に二つの行事を通して、様々な人に協力してもらって人数の少なさを行事の成功につなげることができた。今後の行事はどのような形式で、コロナ禍で果たしてあるのかも分からないが、高二としてもっと団結し、他学年の協力も得ながら補習校全体として素晴らしい交流を深めていきたい。

